

カリキュラムの説明

1

東京工業大学 環境・社会理工学院
社会・人間科学系 社会・人間科学コース

社会・人間科学系 社会・人間科学コース 理念

人文・社会・理工の知と方法をもって
人間と社会と科学技術をつなぎ、
価値形成と問題解決に邁進する
国境なきリーダーを育成する。

“Trans-disciplinary, Translational, Transnational,
Transformational and Transactional Leaders”

“5T Leaders”

目的

科学技術は、これまで、人間や社会に多大な進歩をもたらし、貢献してきた。一方、科学技術は、想定外のさまざまな問題を引き起こしてきた。科学技術による人間や社会のさらなる発展の実現と、科学技術が人間や社会に引き起こす問題の解決には、人間・社会・科学技術の理解に必要な人文学・社会科学・理工学についての広い知識と、政治・法律・行政、教育・福祉・健康、文化・芸術、科学技術社会、認知・数理・情報などの分野における高い専門性をもち、自ら高度な価値判断基準を形成してビジョンを表明する価値形成力と必要な仕組みを創造的に設計し力強くプロセスを推進する問題解決力を備えたリーダーが必要である。また、そのリーダーは、批判的な分析統合能力、互恵的な関係構築能力、多分野多文化間の対話発信能力を身につけ、多様性の理解と豊かな人間性、人間・社会・科学技術の間のブリッジ能力をもっていることが求められる。

本系・本コースは、このような役割を担う人材や、そのような人材の教育と福祉向上に貢献する人材を、政治・法律・行政、教育・福祉・健康、文化・芸術、金融・保険・サービス、情報通信・製造、研究・開発など、人間・社会・科学技術に関わるあらゆる業種・職種に輩出することを目的とする。

受け入れる・輩出する人材像

人文学・社会科学・理工学など知識・専門性の面でのバックグラウンドや、
経歴・経験などの面でのバックグラウンドを問わず、**多様な人材を受け入れます。**

習得する資質・能力	詳細
1. 領域固有知識	広い知識（人文・社会・理工）、高い専門性（5分野）
2. 汎用的技能	批判的な分析統合能力、互恵的な関係構築能力、多分野多文化間の対話発信能力
3. メタ認知	多様な知識構造、価値観、世界観の理解
4. 人間性	高い倫理観、感受性、柔軟性、責任感、積極性
5. ブリッジ力	洞察能力、省察能力、翻訳能力
6. 価値形成力・問題解決力	自ら高度な価値判断基準を形成してビジョンを表明する。 必要な仕組みを創造的に設計し力強くプロセスを推進する。
7. 専門学術研究力（博士）	人間・社会・科学技術に関連する諸学の密接な連携による。
8. 専門性の価値形成と 問題解決への活用力（博士）	自らの専門性を人間・社会・科学技術が関わる価値形成と 問題解決に活かす。

高い専門性を持つ教員が 多様な分野から集結

分野	担当教員（第一担当のみ記載。複数分野担当制により、分野横断的な教育を実施）
政治・法律・行政	桑子敏雄、金子宏直、谷口尚子、江川緑、樫浩一、志村近史、飛田博史
教育・福祉・健康	室田真男、林直亨、松田稔樹、丸山剛生、須田和裕、中山実、石川国広、小谷泰則
文化・芸術	上西哲雄、DE FERRANTI HUGH、劉岸偉、戦暁梅、上田紀行、伊藤亜紗、畑中健二、岩男征樹、河村彩
科学技術社会	中島秀人、梶雅範、BEKTAS YAKUP、 （新任教員着任予定）
認知・数理・情報	前川眞一、山岸侯彦、猪原健弘、平川八尋、山元啓史、佐藤礼子、石岡恒憲、荘島宏二郎、栗山直子、寺井あすか、村井源

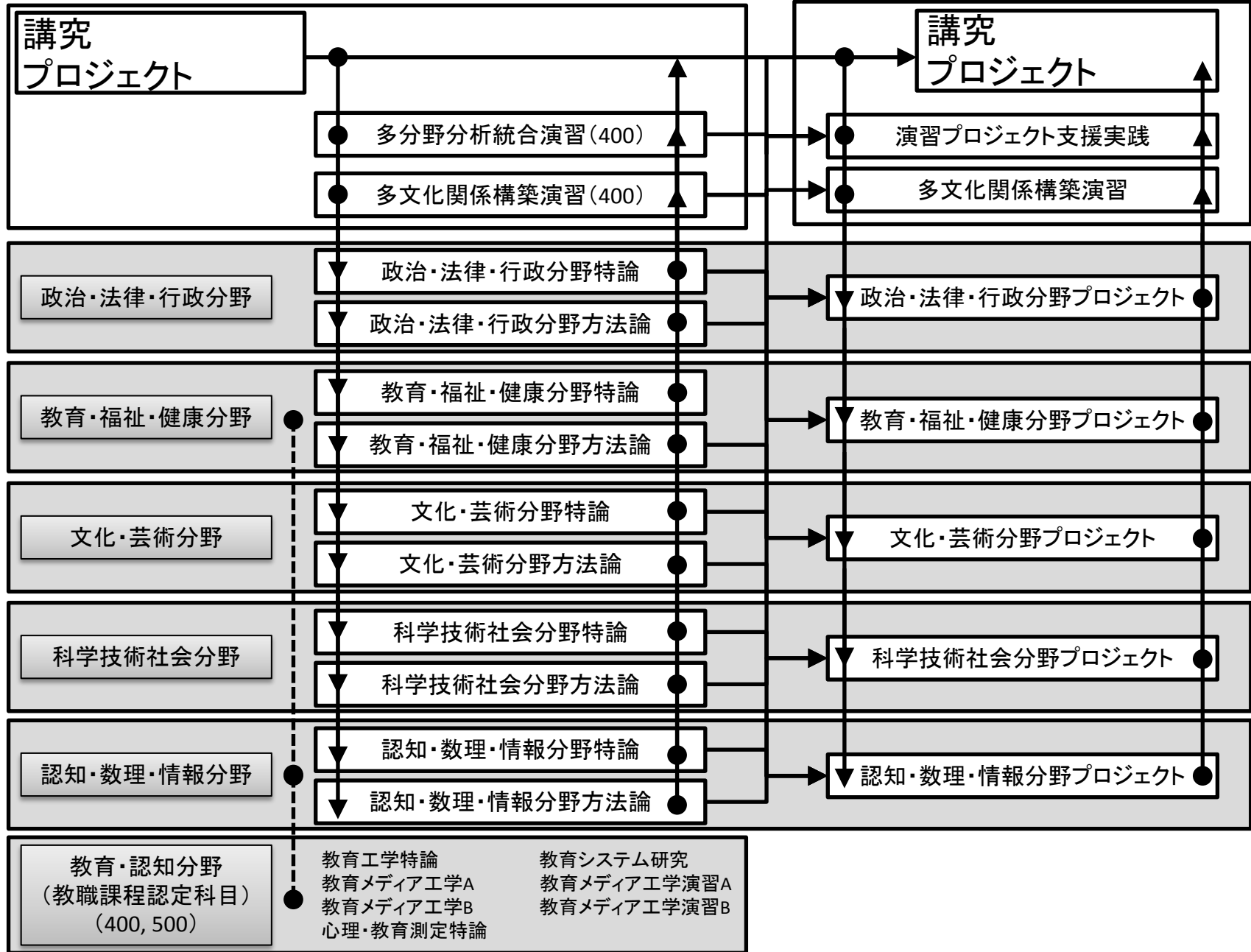
教員の構成はH27.8時点の案です。教授、准教授、助教、および、外部連携教員を含みます。新規着任を含め変更があり得ます。

カリキュラム案の体系

- ・ 広い知識と高い専門性の獲得のため、共通科目と分野別科目をバランスよく配置。
- ・ 研究室横断、分野横断など「横のつながり」の促進のため、プロジェクトやグループワークを重視。
- ・ 【共通科目】対話発信科目群（プロジェクト）で発信型コミュニケーション能力を、分析統合科目群（多分野分析統合演習）で受信型コミュニケーション能力を育成。
- ・ 【共通科目】関係構築科目群（多文化関係構築演習）で「外への広がり」を、支援実習キャリア科目群（演習プロジェクト支援実践）で「縦のつながり」を促進。
- ・ 【分野別科目】は、専門知識習得のための「特論」、分析方法を習得する「方法論」、実践力を養う「プロジェクト」で構成、体系化。

共通科目

分野別科目



クオータ別 共通科目(理工系必修科目、理工系選択必修科目、理工系選択科目)配置図

クオータ 学習内容	修士1～8Q 400～500	博士1～12Q 600
講究科目群 高い専門性(資質1) 分析統合能力(資質2) 価値形成力・問題解決力(資質6)	講究 S1,F1,S2,F2(400,500)4科目 理工系必修科目 全4単位4単位必修/各1単位(0-1-0)	講究 S3,F3,S4,F4,S5,F5(600)6科目 理工系必修科目 全12単位12単位必修/各2単位(0-2-0)
共通プロジェクト対話発信科目群 (研究関連科目) 広い知識(資質1) 対話発信能力(資質2) 多様な知識構造(資質3) ブリッジ能力(資質5)	プロジェクト S1,F1,S2,F2(400,500)4科目 理工系選択必修科目(A群) 全4単位2単位必修/各1単位(0-0-1)	プロジェクト S3,F3,S4,F4,S5,F5(600)6科目 理工系選択科目(E群) 全6単位/各1単位(0-0-1)
分析統合科目群(専門科目) 広い知識(資質1) 分析統合能力(資質2) 多様な知識構造(資質3)	多分野分析統合演習 S1A,S1B,F1A,F1B(400)4科目 理工系選択必修科目(C群) 全8単位4単位必修/各2単位(0-2-0)	
関係構築科目群(研究関連科目) 互恵的な関係構築能力(資質2) 多様な価値観・世界観(資質3) 豊かな人間性(資質4)	多文化関係構築演習 S1A,S1B,F1A,F1B(400)4科目 理工系選択必修科目(B群) 全4単位2単位必修/各1単位(0-1-0)	多文化関係構築演習 S3A,S3B,F3A,F3B(600)4科目 理工系選択科目(F群) 全4単位/各1単位(0-1-0)
	合計13単位以上必修(修了要件30単位以上)	
支援実習キャリア科目群 (研究関連科目) 専門学術研究力(資質7) 専門活用力(資質8)		演習プロジェクト支援実践 S3A,S3B,F3A,F3B(600)4科目 理工系選択科目(G群) 全4単位/各1単位(0-0-1)
		合計12単位必修(修了要件24単位以上)

クオータ別 分野科目(理工系選択科目)配置図(選択、専門科目)

分野名	クオータ		修士400(D群)				修士500	博士600
	1Q	2Q	3Q	4Q	5~8Q	1~12Q(H群)		
政治・法律・行政分野 科目群(全6科目8単位)	特論S1A: 1	特論S1B: 1	特論F1A: 1	特論F1B: 1		プロジェクトS3,F3(600)2科目 全2単位/各1単位(0-0-1)		
	方法論S1: 2		方法論F1: 2					
文化・芸術分野 科目群(全6科目8単位)	特論S1A: 1	特論S1B: 1	特論F1A: 1	特論F1B: 1		プロジェクトS3,F3(600)2科目 全2単位/各1単位(0-0-1)		
	方法論S1: 2		方法論F1: 2					
科学技術社会分野 科目群(全6科目8単位)	特論S1A: 1	特論S1B: 1	特論F1A: 1	特論F1B: 1		プロジェクトS3,F3(600)2科目 全2単位/各1単位(0-0-1)		
	方法論S1: 2		方法論F1: 2					
教育・福祉・健康分野 科目群(全7科目8単位)	特論S1: 1		特論F1: 1			プロジェクトS3,F3(600)2科目 全2単位/各1単位(0-0-1)		
	方法論S1: 2		方法論F1: 2					
教育・認知分野 (教職課程認定 科目) (全7科目8単位)	教育工学特論: 1-0-0	教育システム 研究: 0-2-0		心理・教育測 定特論: 1-0-0				
			教育メディア工 学A: 1-0-0	教育メディア工 学B: 1-0-0				
			教育メディア工 学演習A: 0-1-0	教育メディア工 学演習B: 0-1-0				
認知・数理・情報分野 科目群(全10科目12単 位)	特論S1A: 1	特論S1B: 1	特論F1A: 1	特論F1B: 1		プロジェクトS3,F3(600)2科目 全2単位/各1単位(0-0-1)		
	方法論S1: 2		方法論F1: 2					
<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程認定科目以外の特論は1-0-0の1単位、方法論は2-0-0の2単位。 ・3つ以上の分野について特論と方法論を各1科目以上、合計8単位以上の履修を推奨 ・養われる能力: 高い専門性、分析統合能力、価値形成力・問題解決力・広い知識、多様な知識構造 						<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトは0-0-1の1単位。 ・2つ以上の分野について各1科目以上、合計2単位以上の履修を推奨。 ・養われる能力: 広い知識、対話発信能力、多様な知識構造、ブリッジ能力 		
本計画は本学による構想であり、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果によって確定するため、変更があり得ます。								

キャリア科目
対応

履修モデル例（修士）

修士	1Q	2Q	3Q	4Q	5Q	6Q	7Q	8Q	
	11		11		7		1		単位
教養科目	修士キャリアデザイン	リーダーシップ道場	修士キャリアデザイン演習	ピアレビュー実践	世界を知る：ヨーロッパ				5
専門科目	多分野分析統合演習	多分野分析統合演習	多分野分析統合演習	多分野分析統合演習	教育工学特論	教育システム研究			17
	政治・法律・行政分野 特論	政治・法律・行政分野 特論	科学技術社会分野 特論	科学技術社会分野 特論	科学技術社会分野 方法論				
	政治・法律・行政分野 方法論		政治・法律・行政分野 方法論						
研究関連科目	プロジェクト		プロジェクト						4
		多文化関係構築演習	多文化関係構築演習						
講究科目	講究		講究		講究		講究		4

履修モデル例 (博士)

博士	1Q	2Q	3Q	4Q	5Q	6Q	7Q	8Q	9Q~12Q		
	8		5		4		3		4		単位
教養科目	学生プロ デュース 科目	文系先端 科目									6
	博士キャ リアデザイ ンI	博士キャ リアデザイ ンII	ALP研修 基礎		ALP研修 I (ティー チング)						
専門科目	文化・芸術分野 プロ ジェクト		認知・数理・情報分野 プロジェクト				政治・法律・行政分野 プロジェクト				3
研究関連 科目	プロジェクト			演習プロ ジェクト支 援実践		多文化関 係構築演 習					3
講究科目	講究		講究		講究		講究		講究	講究	12

科目例 (1/4)

『社会・人間科学 プロジェクト』(修士、博士)

高い専門性、分析統合能力、価値形成力、問題解決力、ブリッジ能力の習得と人間性の涵養のために、知識と方法論を統合して実践的に取り組むプロジェクト型の科目。個別プレゼンテーション、グループ・プレゼンテーション、個別ポスター発表、グループ・ポスター発表、ディベート、グループワーク、論文・レポート作成（個別）、論文・レポート作成（グループ）、学修連携、修博連携などを取り入れ多様な方法での対話発信を実践することで、広い知識、対話発信能力、**ブリッジ能力**の習得と人間性の涵養も狙う。

ブリッジ力	
洞察能力	人間・社会・科学技術の特性や相互作用の理解に基づいて問題の本質を捉える
省察能力	人間や社会や科学技術を過信しない
翻訳能力	新たな科学技術が持つ意義や問題点、それへの対応方法を人間や社会に伝え、人間や社会が持つ関心や懸念を科学者・技術者に説明する翻訳能力

科目例 (2/4)

『社会・人間科学 多分野分析統合演習』(修士)

広い知識、分析統合能力、ブリッジ能力の習得のために、人文・社会系出身者は理工系の基礎知識と分析統合方法を、理工系出身者は人文・社会系の基礎知識と分析統合方法を学ぶことができる**ミニコース**（90分×7.5回程度）を多数開講する演習科目。

ミニコースの例：

研究リテラシー、論理と集合の基礎、距離・収束・連続の基礎、Cognitive Psychology、思考と学習、データマイニング入門、言語手法・談話領域の研究手法1、第二言語習得論、統計分析入門、地域づくり論、複合領域法学、日本政治思想史、多文化共生の知識と技法、アメリカ文学史、健康科学演習、さまざまな人とスポーツ、生体信号の計測と解析、科学技術倫理、環境科学史特論、科学史技術史特論、Material Culture and Museums of Science and Technology in Tokyo、Empire and Communications: Writing to Electric Communication、障害と共生社会、倫理思想史、比較文化史概論、No music, no life?、メディアコミュニケーション演習

科目例 (3/4)

『社会・人間科学 多文化関係構築演習』(修士、博士)

互恵的な関係構築能力の習得、多様な価値観・世界観の理解、豊かな人間性の涵養のために、留学・国際学会発表、国際集中セミナー、国際ワークショップ、国際インターンシップなどへの参加や、学術集会、集中セミナー、ワークショップなどの企画運営・運営支援を単位として認定する演習科目。

科目例 (4/4)

『社会・人間科学 演習プロジェクト支援実践』(博士)

専門活用力、専門学術研究力を活かして、演習やプロジェクト研究の実践力を養う実践科目。演習科目やプロジェクト科目、講究科目等の運営支援を行うことで、リーダーに必要な価値形成力と問題解決力の涵養を狙う。

社会・人間科学系 社会・人間科学コース

人文・社会・理工の知と方法をもって
人間と社会と科学技術をつなぎ、
価値形成と問題解決に邁進する
国境なきリーダーを育成する。

“Trans-disciplinary, Translational, Transnational,
Transformational and Transactional Leaders”

“5T Leaders”

お問い合わせ先：猪原健弘 (inohara.t.aa@m.titech.ac.jp)